3課 4月17日

「すべての未来の世代」



安息日午後 4月10日

暗唱聖句

しかし、ノアは主の好意を得た。(創世記 6:8、新共同訳) しかし、ノアは主の前に恵みを得た。(創世記 6:8、口語訳)

今週の聖句

創世記 3:6、創世記 6:5、11、創世記 6:18、創世記 9:12~17、イザヤ 4:3、 黙示録 12:17

今週のテーマ

バクテリアは非常に微小な生物ですので、顕微鏡なしに見ることはできません。単一細胞によく見られる円形のバクテリアは、1,000 倍に拡大しても鉛筆の先ほどにしか見えません。しかし、彼らの好む、成長に必要十分な温度、湿度、食物といった条件がそろえば、非常な速度で増殖します。たとえば、あるバクテリアは、成熟した一つの親細胞が単純に二つの子細胞に分かれるといった単純分裂によって繁殖します。1時間に1回の分裂が起きたとすると、24時間で1個のバクテリアから1,600万個を超える新しいバクテリアが生まれる計算になります。48時間後には、数千億個のバクテリアが出現しているでしょう。

自然界におけるこの顕微鏡的現象は、人類の堕落後の悪の急速な蔓延を示す良い例でしょう。偉大な知性と強壮な健康、そして長寿に恵まれたこの繁殖力旺盛な人類は、神を見放し、彼らに与えられた類まれな能力をありとあらゆる形の不法を追い求めるために悪用したのでした。バクテリアは太陽光線、化学薬品、あるいは高温によって絶滅できますが、神はこの奔放な謀反を食い止めるために、全世界的な洪水をお選びになったのでした。

今週のポイント

神の創造の御業に対して、罪は何をしましたか。ノアはどんな特徴を備えた人物でしたか。ノアとの契約に際して、どんな要素が考慮されましたか。洪水前に結ばれたノアとの契約の中に、神の恵みはどのように表されていましたか。洪水の後に神が人類と結ばれた契約は、神の私たちに対する普遍的な愛について、どのように教えていますか。

日曜日 4月11日 罪の原則(創6:5)

創造の御業の終わりに神が自ら下された評価は、すべてが「極めて良かった」というものでした(創1:31)。その後、罪が入り、世界はもはや「極めて良い」ものではなくなりました。神の秩序の表れであった創造の御業は、罪によって損なわれ、その結果すべては忌まわしいものとなりました。聖書はその状況について詳しく語っていませんが(『人類のあけぼの』第8章「ノアの洪水」参照)、人類の背きと反逆は、明らかに愛と忍耐と赦しの神でさえ容認することのできないほどひどいものでした。

なぜ世界はこんなにも早く悪に染まってしまったのでしょうか。その答えを探すのは、今日、自分たちの罪を見て、この同じ問いを投げかける人がどれほどいるかを考えれば、おそらくそれほど難しいことではないでしょう。

問1 次の聖句を読んで、どのように罪が進行したのか、そのポイントとなる出来事を書き出してみましょう。

①創世記 3:6

②創世記 3:11~13

③創世記 4:5

4創世記4:8

⑤創世記 4:19

⑥創世記 4:23

⑦創世記 6:2

⑧創世記 6:5、11

創世記6:5、11に描かれた状態が空白の時代の後に突然起きたのではありません。この恐ろしい結果には、その前に歴史があり、原因があったはずです。罪は放っておいても自然に治るすり傷のようなものではありません。罪は食い止めなければ増え広がり、滅びと死に至るまで決して留まるところを知らないのです。この罪の原則を見定めるために、洪水前の生活を想像する必要はありません。今日も、この原則は私たちの周りに、存在しているからです。

神が罪を憎まれることは疑いのない事実であり、遅かれ早かれ、罪は根絶されます。義と愛の神だけがそれをおできになるのです。

良い知らせは、神は罪は滅ぼされますが、罪人の救いを願っておられるという事実です。それこそが主の契約のすべてなのです。

月曜日 4月12日 人間ノア(創6:9)

- 問2 大洪水前の悪の記述すべての中で、彼の周囲の人間たちと著しい対比を見せるのが人間ノアです。創世記6:9(口語訳) に聖書は、特筆すべき彼の3つの特徴をあげています。これらの特徴をあなたの最も良いところと比べてみてください。
 - 1 彼は「正しく」
 - 2 かつ「全き人」で
 - 3 「神とともに歩んだ」

ノアが主との救いの関係を持っていた人であったことに疑問の余地はありません。彼は神が共に働くことのできた人であり、神に聞き、従い、そして信頼する人でした。それゆえに主は、その目的を成就するためにノアを用いることがおできになったのであり、新約聖書でペトロは彼を「義の宣伝者」と呼んでいるのです(2ペト2:5、口語訳)。

問3 創世記6:8(口語訳) は、ノアと主の関係を理解するのにどのような助けとなりますか。

ここに、聖書で最初に「恵み」という言葉が出てきます。これは明らかに、新約聖書に描かれている、受ける価値のない罪人に施された神の憐れみであり、功績なしに与えられた好意なのです。ですから、ノアは正しく、全き人であってもなお、功績なしに与えられる神の好意を必要とする罪人だったと考える必要があります。その意味において、ノアは主に従うことを誠実に求める私たちと何ら変わらない人間だったのです。

ノアが私たちと同じように神の恵みを必要としたことを念頭に置いて、あなた自身の生活を見つめ、自分自身に問いかけてみてください。「私もノアのように正しく、全き人となり、神と共に歩むことができるでしょうか」。 さしつかえなければ、その理由をクラスで分かち合ってみましょう。

火曜日 4月13日 ノアと結ばれた契約

「ただし、わたしはあなたと契約を結ぼう。あなたは子らと、妻と、子らの妻たちと共に箱舟にはいりなさい」(創6:18、口語訳)。

この聖句の中に、神が人間と結ばれる聖書的契約の基本原則を見ることができます。それは、神と人類の契約は同意に基づいているという非常に単純な原則です。

しかし、他にも考えるべき要素があります。まず、人間の側の服従という要素です。神はノアとその家族に箱舟に入るように言われます。彼らにはなすべき分があり、それをしなければ契約は破棄されます。契約が破棄されれば、この契約の恩恵を受けるのは彼らですから、最終的に彼らが損失を被ることになります。

問4 神はここで「わたしの契約」(創6:18、英語欽定訳)と言われます。それは、この契約の基本的な性質をどのように表していますか。もし主が、「わたしたちの契約」と言われたとしたら、どのような違いが生まれたでしょうか。

この状況は特殊なものではありますが、この契約の中に基本的な神と人間との関係が見えます。「わたしの契約」をノアと結ぶことによって、神はここで再度、その恵みを示しておられます。ここで主は、罪の結果から人類を救うために、主ご自身が喜んでまず、行動を起こされます。言葉を変えれば、この契約は、互いに依存し合う同等な立場の者同士が結ぶような契約ではないということです。しかし、神にもこの契約によって「利益」はあるのです。それは、私たち人間の感覚での利益とは根本的に異なるものです。神の利益とは、主の愛する者たちが永遠の命を得るということなのです。そしてそれは、主にとって決して小さな満足ではありません(イザ53:11)。しかし、主がお受けになる利益は、同じ契約の受益者として私たちが受けるのと同じであると考えるべきではありません。

こんな例えから考えてみましょう。1人の男が嵐のただ中に船から投げ出されたとします。甲板の乗組員が浮き輪を投げるからつかまるようにと叫びます。しかしながら、海中の男はこの「取引」に同意しなければなりません。同意するとは、彼に差し出された物をつかみ、それに身をあずけるということです。かたちは違っても、神と人間との間で結ばれる契約はすべて同意が必要です。

上の例えは神の契約の中にある恵みの考えを理解する助けになりますか。このたとえは今、あなたと神との関係も必要とするどんな原則を教えていますか。

水曜日 4月14日 しるしの虹

「更に神は言われた。『あなたたちならびにあなたたちと共にいるすべての生き物と、代々とこしえにわたしが立てる契約のしるしはこれである。すなわち、わたしは雲の中にわたしの虹を置く。これはわたしと大地の間に立てた契約のしるしとなる』」(創9:12、13)。

虹よりも美しい自然現象はほとんどありません。あなたを手招きするような空にかかる驚くべき光の帯は、天への不思議な入り口のように(あるいはごくまれに道化師のベルトのように)、それは幼いあなたを最初に魅了したものだったに違いありません。大人でさえ、雲間に輝くそのすばらしい色彩に息をのむことでしょう。間違いなく、その美しい色の帯は今もなお、私たちの心の琴線に触れます。もちろん、それこそが神の意図されたことでした。

問5 なぜ主は虹をしるしとされたのでしょうか(創9:12~17)。

主は虹を「わたしの契約」のしるしとすると言われました(創世記9:15、新改訳2017)。神がここで「契約」という言葉を用いておられるのは興味深いことです。この場合の契約は、他のどこで用いられる契約とも異なるものだからです。アブラハムに立てられた契約やシナイ山での契約とは違って、この契約にはその利益を受ける対象がだれも(ノアでさえ)示されていません。ここでの神のみ言葉は、すべての人間と、「すべての生き物、すべて肉なるもの」(創9:15)に対して、そして「未来の世代」(同12節、英語改定標準訳)のために語られています。このみ言葉は、万人に向けられた包括的なものであり、主に従う者であるか否かを問いません。その意味で、このような「契約」は、神と人間の関係について語るとき、聖書のどこにも他に類を見ません。

問 6 どのような意味で、この契約もまた神の恵みを表していると言えますか。 この契約をまずお立てになり、最終的に人間に利益をお与えになる方 はどなたですか。

ここに表された契約には、私たちの側の義務が明記されていませんが(神の側の義務はもちろん、世界を二度と洪水で滅ぼさないということ)、虹が象徴するものについての知識は、どのように私たちの主に対する服従に影響を与えますか。

木曜日 4月15日 「そしてノアだけが残った」

「地の面にいた生き物はすべて、人をはじめ、家畜、這うもの、空の鳥に至るまでぬぐい去られた。……ノアと、彼と共に箱舟にいたものだけが残った」(創7:23)。

この聖句の中に、聖書にある「残りの民」という思想が初めて登場します。 「残った」と訳されている言葉は、旧約聖書では「残りの者」という意味で何度も用いられる別の言葉をその語根としています。

「神がわたしをあなたたちより先にお遣わしになったのは、この国にあなたたちの**残りの者**を与え、あなたたちを生き永らえさせて、大いなる救いに至らせるためです」(創45:7、強調付加)。

「そしてシオンの**残りの者**、エルサレムの**残された者**は、聖なる者と呼ばれる。彼らはすべて、エルサレムで命を得るものとして書き記されている」(イザ4:3、強調付加)。

「その日が来れば、主は再び御手を下して/御自分の民の**残りの者**を買い戻される」(イザ11:11、強調付加)。

これらの聖句の中で、強調を付加した「残りの者」はみな、創7:23に見られる「残った」と関連する語です。

問7 創世記7:23と他の例を見て、あなたはこの残りの者という思想をどのように理解しますか。残りの者を取り巻く条件とは何でしょうか。 神の契約と残りの者という思想は、どのように一致するでしょうか。

大洪水の時代に、創造主は世の裁ぎ主となられました。近づく世界規模の裁 きで、だれが生き残るのでしょうか。だれが残りの民となるのでしょうか。

大洪水の時代、この問いの答えは、ノアと彼の家族でした。しかし、ノアの 救いは、彼と結ばれた神の契約によるものでした(創6:18)。それは神がお立 てになり、憐れみと恵みの神によって実行された契約でした。彼らはただ、神 が彼らのためにされたことによって生き残ったのです。しかし彼らの協力も重 要でした。

終わりの日の出来事には残りの民が主のために立つときが含まれるという私たちの理解に基づいて(黙 12:17 参照)、残りの民に加わるための備えとして、ノアの物語はどんな教訓を教えていますか。私たちが最後のときに立つために、私たちの日々の決断はどのように大きな影響を与えるでしょうか。

参考資料として、『人類のあけぼの』第8章「ノアの洪水」と第9章「約束のにじ」を読みましょう。

「自然の物理現象である虹は、地上を二度と洪水によって滅ぼすことはないとの神の約束の象徴としてふさわしいものであった。大洪水の後、地球の気象条件はまったく変わってしまったために、世界のほとんどの地域で、それまで地を潤していた情け深い露に代わって雨が降るようになった。雨が降り始めるたびに、人の心に起きる恐れを静めるものが必要となった。霊の心は自然現象の中に神がご自身を現しておられるのを見ることができる(ロマ1:20参照)。こうして虹は、信じる者たちに、雨は祝福であり、全世界を滅ぼすものではないことの証拠となったのである」(『SDA聖書注解』第1巻265ページ、英文)。

話し合いのための質問

●「その頃、世界は人で満ち溢れ、どよめきを響かせていた。最高神エンリル (大気と嵐の神)は、その喧騒に眠りを覚まされ、神々と相談をした。『人間たちの大騒ぎには堪忍ならん。あの騒音のためにおちおち眠ってもいられない』。 そこで神々は人間を根絶することに賛成した」(N・K・サンダース訳『ギルガメッシュ叙事詩』より「洪水の物語」108ページ、英文)。この物語の洪水の理由と聖書の理由を比べてみてください。

まとめ

今週私たちは、神がノアと結んだ契約は、聖書の中でも他に類を見ない契約であることを学びました。それらの契約は、神の人類家族に向けられた憐れみ深い関心と、彼らを救いの関係に入らせたいとの主の願いを表しています。神はノアと結んだ契約を、ノアが神に従う決心をしたときに、再度是認されます。ノアの決心は、結果的に、彼を世界に広がりつつあった背教から守り、彼と彼の家族を大洪水という恐ろしい裁きから救うことになるのでした。

「この雲の中に現れた〔虹という〕しるしは、人類すべての信仰を確かなものとし、彼らの神に対する信頼を不動のものとするためであり、人間に対する天の憐れみと善意の象徴となるのであった。こうして神は、洪水によって地を滅ぼすことをやむなしとされながらも、その憐れみはなお地を覆っていたのである」(『贖いの物語』71ページ、英文)。

メキシコの伝道のために

メキシコに住むグスタボは、電気通信会社を58歳で引退しました。彼は、開拓 伝道に情熱を持っていましたが、何をしたらよいか分かりません。グスタボと妻 のマリアは、「神様、私たちは何をすべきでしょうか」と祈り始めました。

数週間後、地元の牧師から、町のプラヤス・デル・ロザリオに教会を開拓する計画を知りました。彼は3週間祈り、そのプロジェクトに参加する決心をしました。 集会の場所は、ある教会員が家を提供してくれることになりました。だれも住んでいない家だったので、グスタボは無料で自由に使うことができました。

最初の礼拝には、グスタボと妻に加え、3人の母親と12人の子どもたちが出席しました。初めからたくさんの人々が集まったので、彼は神がこの計画を祝福してくださっていることを確信しました。

それから、グスタボが1週間の伝道講演会を開くと、子どもが20人まで増えました。彼は子どもたちのために、特別な安息日学校を午前中に開き、午後に大人を加えた全員のための礼拝を持つことに決めました。

そんな中、毎週出席していた親子に試練がやって来ました。親子が教会へ通うことを快く思わない大家さんが、親子を家から追い出したのです。しかし、母親はくじけませんでした。彼女は新しい家を借りて、教会に通い続けました。そして教会では、彼女を追い出した大家さんが導かれるよう、みなで断食しながら祈りました。すると、大家さんは文書伝道を通してアドベンチスト教会を知り、祈って欲しいと頼んできたのです!

その頃、グスタボは隣の集落に建つアドベンチストの教会で、伝道講演会を開きました。1人の女性と1人の男の子がバプテスマを受け、教会開拓の初穂となりました。開拓からわずか4か月で、その最初の教会員が与えられたのです。

グスタボは、「私たちは、信仰によってもっと多くの教会員を神が加えてくださり、私たちの小さな集まりが成熟した教会になると知っています」と言っています。

